

各種健診等のご案内

健診等の日程は p.28 町内イベントカレンダーをご覧ください。

町のホームページから
でも確認できます→



乳幼児健診 各種健康診査
各種事業

<注意>

- ・乳幼児健診と BCG 予防接種は対象者へ個別にご案内します。
- ・健診を希望する方は、健診日の 1 週間前までに健康推進係へ申し込みください。
- ・特定健診やがん検診は、町内イベントカレンダー以外の日程でも受けることができます。

急病時・夜間の相談先

■救急安心センターさっぽろ

24 時間・365 日、看護師が相談に対応。受診可能な医療機関をご案内します。

・電話番号 # 7119 または 011 - 272 - 7119

■こども医療でんわ相談

症状に応じた一般的な対処・助言を看護師等から受けられます。診断・治療はできません。

・受付時間 19 時～翌朝 8 時

・電話番号 # 8000 または 011 - 232 - 1599

■北海道救急医療・広域災害情報システム

緊急時に受診可能な道内の病院を 24 時間（年未年始などの連休も可）検索できます。

・フリーダイヤルは 0120 - 20 - 8699

・携帯電話からは 011 - 221 - 8699

・インターネット検索は <http://www.qq.pref.hokkaido.jp>

休日・夜間の受診先

<休日・昼間>

日曜・祝休日は江別市内内科小児科休日急病当番をご利用ください（※ p.28 町内イベントカレンダー参照）。乳児の場合は一部の医療機関で事前連絡が必要となりますので、ご注意ください。

町のホームページから
でも確認できます→



急病当番医

※医療機関の都合により、変更となる場合があります。最新情報は新聞紙上や救急安心センターさっぽろ、北海道救急医療・広域災害情報システムでご確認ください。

<夜間>

■江別市夜間急病センター **内科** **小児科**

・住所 江別市錦町 14 - 5

・受付時間 18 時 30 分～翌朝 6 時 30 分（年中無休）

・電話番号 011 - 391 - 0022

■勤医協中央病院 **内科**

・住所 札幌市東区東苗穂 5 条 1 丁目 9 - 1

・受付時間 19 時～翌朝 9 時（年中無休）

・電話番号 011 - 782 - 9111

近くの医療機関案内

診療時間は、町のホームページに掲載しています。少し遅い時間に診療している医療機関もありますのでご確認ください。

予防接種（個別）・健診 実施医療機関

ご希望の方は、事前にお申込みください。

医療機関名	電話番号 (札幌市外局番 011)	予防接種					健診
		4 種混合・不活化ポリオ・ヒブ・水痘・MR・DT	小児肺炎球菌・B 型肝炎・ロタ	日本脳炎	高齢者肺炎球菌	子宮頸がん	特定健診・後期高齢者健診・肝炎ウイルス検診
勤医協当別診療所	23 - 3010	●		●	●		●
さいわい内科消化器クリニック	27 - 7591				●		●
スウェーデン通り内科循環器科クリニック	25 - 3151	●	●	●	●	●	●
田園通りさわぎき医院	25 - 2055	●	●	●	●		●
とうべつ内科クリニック	22 - 1313				●		●
とうべつ整形外科	25 - 5040			6 歳～	●	●	
北海道医療大学病院(札幌市北区)	778 - 7575	●	●	●	●	●	●

※小児科定期予防接種（子宮頸がん除く）は、江別市内の小児科 6 カ所でも接種可能です。

聴力の低下、放置していませんか

自分自身や家族の聴力の低下で、会話に不自由を感じたことはありませんか？始めは大きい声で話したり、耳元で話かけたり、なんとか伝えようとお互いががんばります。しかし、徐々に「聞こえないから、話さない。話しかけない。」と会話の機会が減ってはいませんか？

75歳以上の約半数は難聴に悩んでいる

難聴の原因はさまざまですが、加齢とともに進む「加齢性難聴」は40代から始まると言われています。始めは高い音の聴力から下がり、60代になると「聞こえにくくなくなった」と感じる人が増え、70歳を超えると高い音だけでなく、ほとんどの音域の聴力が「軽度難聴～中等度難聴」レベルまで低下します。

聞き間違いが多く、会話がちぐはぐになる・何度も聞き返すことが増えた・テレビやラジオの音が異常に大きいと言われる・呼びかけられても気づかないことが多い・話し声が大きくなったと言われるなど、1つでもあてはまるものがあつたら、難聴の初期症状かもしれません。

聴力の低下はなぜ危険か

聴力が衰えるということは、耳から入る情報が少なくなり、脳への刺激が減ることで、認知機能が低下し、認知症につながりやすくなります。また、耳が聞こえづらくなり、会話に参加しづらくなることで、閉じこもりがちになり、足腰などが衰える原因となるのです。「好きだったテレビを見なくなる」「部屋に引きこもることが

多くなる」などの行動から、周りから、認知症ではと間違われる場合もあります。

進行を遅らせるために

加齢性難聴は根本的な治療法はありません。しかし、もしかして？と思ったら放置せず、早めに耳鼻科へ受診しましょう。聞こえにくいからといって、大きな音を聞き続けていると、耳の中が傷つき、さらに難聴の症状を悪化させます。聴力の低下を感じたら、なるべく耳に負担をかけないように、補聴器を使用するなど適切な治療と対応を行うことが重要です。

耳の病気予防のために

【定期的に検査を受ける】難聴は放置しているとどんどん進行します。定期的に検査を受け、症状が出たら早めに治療を受けて進行を食い止めることが大切です。

【規則正しい生活を送る】高齢者難聴を引き起こす原因となる活性酸素は、暴飲暴食、喫煙、運動不足、不規則な生活により発生しやすくなります。聴力の維持のため、規則正しい生活を心がけましょう。

▼問合せ 介護課高齢者支援係（ゆとろ内・☎27-5131）

広告

広告

広告